

令和6年度 千葉市教育研究会

中学校体育部会

11月授業研究会 学習指導案



単元名 球技「バスケットボール」

日時 令和6年11月19日（火）

部会の考え方

単元名 E 球技「バスケットボール」

1 中学校体育部会研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための保健体育指導のあり方
～ 学びに向かう力と体力を高める学習指導の工夫 ～

2 研究仮説

〈市教研・研究目標〉

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、学びに向かう力と体力を高める学習指導の方法を究明する。また、タブレット P C の積極的な活用と効果検証を行う。



〈研究仮説〉

- (1) 単元において学習課題を明確にし、一人一人が課題を意識して活動することで意欲的に授業に臨むことができるであろう。
- (2) 練習方法や作戦を話し合う場面において、様々なツールの効果的な活用場面を設定すれば、課題解決が円滑に進み、思考力・判断力・表現力が高まり、学びに向かう力を育てることができるであろう。

3 授業づくりの経緯

保健体育の球技において、同じ単元を 1 年次・2 年次で扱い内容を発展させていく系統的な指導を目指し、バスケットボールを選択した。学習指導要領にもある通り、1 年次の授業では攻撃を重視し、シュートやパスなどの攻撃の技能だけでなく空間の使い方等にも触れ、どんな攻撃が有効かをグループで考えさせた。その発展となる本単元は、更に攻撃の方法を紹介して増やすよりも、守備側のスキルアップや守り方の工夫を促すことにより、今までの攻撃だけでは得点しづらい状況を作る。それにより生徒たちがグループ内で戦術をより深く考え、課題解決能力の習得に有効な授業としたい。また、技能や経験の差が出やすい攻撃のスキルと違い、守備は一生懸命走って人数を増やしたり、粘り強いステップワークで抜かれないようにしたりと、努力がはっきりと目に見えてチームの力になることが多い。攻撃に苦手意識のある生徒が、守備ならチームの力になれる、ミスをして一生懸命走って戻ろう、など球技に積極的に取り組むことで、学びに向かう力、人間性等の育成が図られる授業にする。

4 授業の視点

〈ツールの活用〉

ギガタブを利用することで、自分や仲間ができるようになったことを記録したり、アドバイスを視覚的に残したりする。準備運動から動的ストレッチを多く入れて怪我の防止を図ったり、ボールに触れる回数を増やして、ハンドリングの感覚が良くなることを狙ったりしている。

1 単元名 球技【バスケットボール】

2 単元について

（1）一般的な特性

○ゴール型のバスケットボールでは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。

①機能的特性・・・バスケットボールは、相対する2チームが一つのボールを媒介にして、個人的・集団的技能による攻防を展開し、限られた時間内に相手ゴールに多くシュートを決めることによって、勝敗を競うことに楽しさを感じることができるスポーツである。

②構造的特性・・・パス、ドリブル、シュートといった、ボール操作などの技能に伴う筋力や、それらの技能を発揮する際に、対戦相手や味方に応じて動くことができる調整力が重要となる。また、ボールを持たないときのボール保持者との連携を工夫したり、守備の際の自分の位置取りを把握して守ったりするなど、チームの作戦に基づいた判断力が必要とされる運動である。

③効果的特性・・・展開の速い攻防の中で、バスケットボールの特性である高い位置のゴールにシュートを打つことや、相手の得点を防ぐための守備の動きなど、場面ごとに異なる動きが連続して行われる。そのため、運動量が多く、筋力や心肺機能の向上にも役立ち、健康への利点が多くある。

チームスポーツならではの、一人ではできないようなことでも仲間との協力を得ることでできるようになったり、みんなで勝つことの喜びを感じたりすることで、仲間の大切さや互いに協力し合うことの大切さに気付くことができる運動である。

（2）生徒から見た特性

○本単元は、オリンピックや世界選手権をはじめ、メディアでも多く取り上げられるスポーツとなっており、生徒にとって認知度が高い。そのため、基本的な動作や試合の進め方について理解していることが多い。

また、本単元の構造的な特性より、パス、シュート、ドリブルなど、それぞれの動きがはっきり分かれているので、実態に合わせて練習をすることで、個人的技能を習得しやすい。その一方で、相手チームの守備が入ることにより、試合形式などの実践に移ると、習得した技能を発揮することが難しくなる場合も多くある。しかし、習得した技能によりそれらの守備を崩したり、チームで作戦を立てて攻めたりすることで得点を獲得できた時は、楽しさや成就感を感じることができる。逆に、相手のシュートを止めるための守備の方法や動作が複雑であるため、守備の動きにつまずきを感じる生徒も多くいる。

(3) 生徒の実態

○本単元で取り扱う内容の中でも特に、「守備」についての技能や動きを身に付けることに焦点を当てていくため、「守備」についての内容を中心にアンケートをとった。

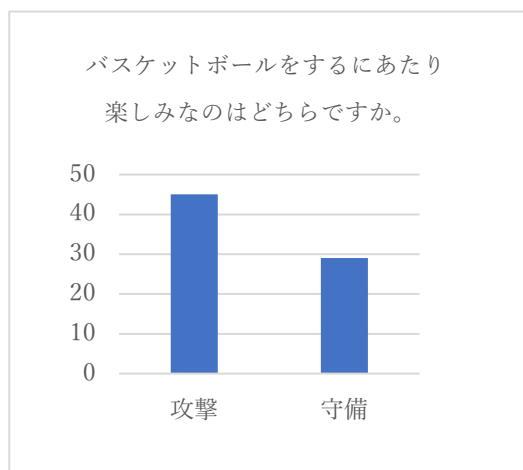
(※1)「バスケットボールをするにあたり楽しみなのはどちらですか」という質問に対して、「攻撃」が60.8%、「守備」が39.2%と、生徒の中では攻撃を楽しみにしている生徒が多くいる。最初の質問で「攻撃」と回答する生徒が半数以上になることを想定し、次に「自分が攻めている時にどんな守備をされたら嫌ですか」という質問をしたところ、「粘り強くついてくる守備」や「自分が進みたい方向に立っていたり、囲まれたりしてしまうような守備」といった内容の意見が多くみられた。また、「マンツーマンでつかれること。理由は、味方がパスを出そうとしている時にブロックされるし、出す側もパスを出しにくいから」という回答や、「進むのが困難」「シュートが打ちづらくなる」などの回答を見ると、相手に対してプレッシャーをかけ、進行を妨げるといった守備の特性を理解しているように感じる。また、次の質問では、(※2)「守備において特に大事だと思うもの」を「フットワーク」「ハンドワーク(手の使い方)」「仲間との協力」「相手との距離感」の中から選択させたところ、半数以上の生徒が「仲間との協力」と回答していた。

単元のまとめとして試合形式の内容を行うため、「試合に勝つために守備はどんなことを意識したいですか」という質問をしたところ、「守る人をちゃんと決めて、距離を考えて守る」「仲間と連携して、声をかけ合いながら守る」という回答が多かった。

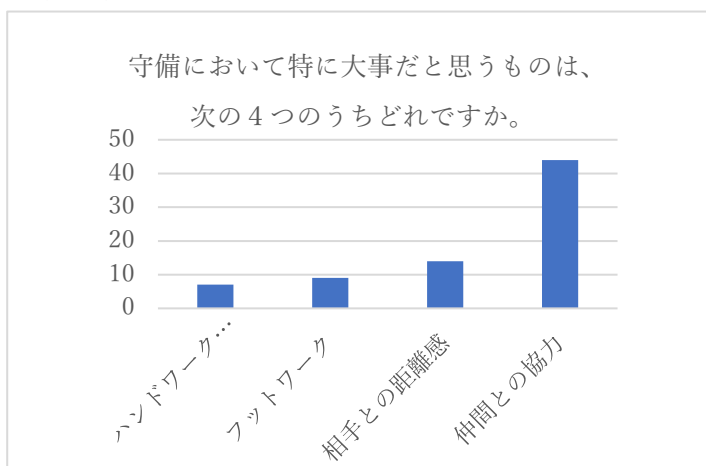
半数以上の生徒が守備よりも攻撃を楽しみにしていることに関して、1年次にバスケットボールの授業を行った際に、攻撃を中心とした授業内容を扱ったため、生徒が楽しみながら攻撃の練習に取り組んでいた。その点をふまえ、今年度守備を扱うことで、守備の知識や技能の習得・向上はもちろん、攻撃の選択肢を増やしたり、強固な守備をかいくぐって攻めていく楽しさを味わえたりするため、攻撃面の技能向上へのアプローチにもつながっていくと考える。

まずはアンケート結果をふまえて、守備の技能や動きを伝えつつも、声をかけ合い、仲間と協力しながら守備を行うことの楽しさを実感してもらえるような授業づくりが必要である。

※アンケート結果 (※1)



(※2)



(4) 教師の指導観

○本単元の特性から、主体的・対話的で深い学びの実践を通して、自分自身、および集団での課題解決能力の育成を図るために本単元を取り扱うことは大変意義深いと考える。

バスケットボールは攻防の展開が速く、多様な基礎体力が求められる運動であるため、競技経験が少ない生徒や運動が苦手な生徒にとっては、苦手意識を持ってしまう場合もある。そのため、自己や仲間の様子を観察する時間を作ったり、課題を見つけ、その課題を克服するために動きのポイントを伝え合ったりする活動を取り入れている。このような互いに関わり合う活動を取り入れることで、それぞれの技能習得はもちろん、自分の得意なプレイや好きな動きを発見することができる。また、試合の場面で、チーム内の役割が明確になり、生徒一人一人が試合の中で責任あるプレイを行うことが期待できる。技能の練習では、単調な練習を反復させるだけでなく、遊びや競争などを取り入れ、生徒が楽しみながら自然と技能の理解や習得ができるような練習内容の工夫をしていきたい。その過程の中で、様々な動きや切り替えの動作が求められるため、瞬時にパワーを発揮できる瞬発力や、さらにオフェンス動作から素早くディフェンス動作に切り替えることができる敏捷性などを育ませたい。生徒は、前向きな雰囲気の中で授業を行うことができるため、その中で育まれる協調性を大切にしてほしい。しかし、周囲の雰囲気に合わせてばかりでいると、それぞれの課題に応じた課題解決練習や動きの工夫がなく進んでしまう可能性もある。教師側のアプローチとして、個別の課題に自身が気づき、課題や自分に合った練習の工夫を発見したり、実践したりすることができる授業作りが重要だと考える。そのために、先述の通り、本単元においても、グループごとに自分たちで考えた課題設定を軸に練習する機会を設けており、リーダーには、グループのメンバーの個の能力差やバランスを配慮した練習内容を考えてもらう。その結果、互いの声かけが具体的になることや、グループ内でつまづいている生徒に対しても、適切なアドバイスができることが期待される。

また、安全でスムーズに授業が進められるようにするため、約束事やマナーを丁寧に確認する。チームメイトや対戦する相手に対してけがをさせることなく、安全に気を配りながら楽しく行うことや、使う用具や場所を大切に扱うことで、スポーツを行う上で重要なフェアプレイの精神を育んでいきたい。それらに関しては、今回のバスケットボールに限らず、各単元を通して継続して伝えていくことで、日常生活における社会性や人とのつながりの大切さを身に付けてもらいたいと考える。体育の授業を通して、自他の成長を図るための関わり合いや、積極的なコミュニケーションを通して、互いに高め合おうとする姿勢を養っていきたい。

3 単元目標

○知識及び技能

ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができるようにする。

○思考力、判断力、表現力等

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

○学びに向かう力、人間性等

球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

4 指導と評価の計画【第1学年及び第2学年 球技（バスケットボール）】

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開し、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											
	学びに向かう力、人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや健康・安全に気を配ることができるようにする。											
	時	1	2	3	4	⑤本時	6	7	8	授業づくりのポイント			
学習の流れ	50	オリエンテーション・ボール操作	健康観察、本時のねらいの確認・準備運動							リーグ戦 全チーム 総当たり	・個人技能の基礎や応用の時間は生徒の実態を見て配慮する。 ・学習カードはギガタブで取り扱う。 ・練習や試合では、その都度アドバイスをし合うことができるように、学習の振り返りで質を高めていく。 ・一斉に動く練習内容は、活動人数と場の工夫をし、衝突などの大きな事故にならないよう安全面に配慮する。		
			シュート練習（基礎・応用）	ボールのもらい方、1対1	2対2、3対3、 4対4 実践練習		ディフェンスの基礎 ディフェンスの応用		個人技能の習得 （シュート、ドリブル、ボールのもらい方等）			チーム練習 （作戦会議、練習）	単元のまとめ
評価の機会		1	2	3	4	5	6	7	8				
	知			①			②	②	総括的評価	観察、記録、ギガタブ			
	技		②	①		②				観察、記録			
	思				②	①	①			観察、ギガタブ			
	態	②			①			②		観察、ギガタブ			
（学習活動に即した評価基準） 単元の評価	知	①バスケットボールで用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。 ③ 対戦相手との競争において、技術の程度に応じた戦術を理解し、作戦を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。											
	技	② パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ② ボールを持っている相手をマークすることができる。											

思	② 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見つけている。
態	② マナーを守ったり、相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ② 作戦などの話合いに参加しようとしている。

5 本時の指導（5時間目／全8時間）

（1）目標・・・基本的な技能を習得し、攻防の切り替えができるようにする。

・ボールを持っている相手をマークすることができる。

【知識及び技能】

・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。

【思考力、判断力、表現力等】

（2）展開

	学習内容と活動	教師の指導（○）・支援（☆） 評価（*）・安全上の留意点（◇）
はじめ 15 分	○用具・器具の準備を行う。（授業前） ○挨拶、出欠確認、健康観察 ○本時の学習内容や課題を確認する。 ボールを持っている相手（マークマン）をマークする技能を習得しよう。	○本時の内容を理解させ、守備の練習をなぜ行うのかについて触れ、本時の目標の見通しを持たせる。
	○ウォーミングアップ ・準備運動（バスケットボールを使用） ・ドリブルありでランニング（1分半） ・シュートドリル（競争で2本先取） グループの内、2人が中央に向き合って立ち、じゃんけんをして勝った人が二人の間に置いてあるボールを持ち、シュートを狙う。負けた人は守備。◆1	◆1～コート図P.8参照 ◇同コートで同時展開するので、交互に動くなど、生徒同士が衝突しないよう場の設定を呼びかける。
なか 25 分	○ディフェンス練習、1対1（12分） ・ビブスを使用したディフェンス練習◆2 ①10秒間で相手が持っているビブスを振り切られずにつかんでおく。 ②足の使い方を説明してからもう一回行う。（スライドステップとクロスステップ） ③ゴールと45度のウィングエリアの間に10秒間、同じ動きを行う。 ④前回までに学習したVカットを使い、オフenseはボールを受け、1対1を行う。（シュートチェック有）◆3	◇進行方向を統一し、別のグループとの接触がないよう配慮する。 ○見本は、教師と経験者の生徒に協力してもらい、実践しながら説明する。 ☆大切なワードや強調したいことは黒板に提示する。 ○「ウィングエリア」「Vカット」などの用語の意味や場所などを再確認させる。 ボールを持っている相手をマークすることができる。〈知-②〉【観察】

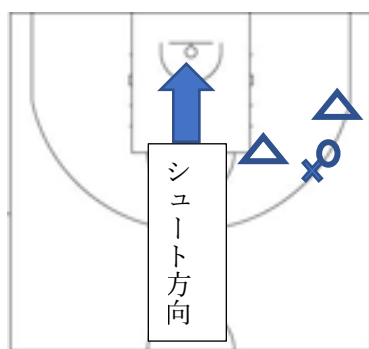
	◆4 グループごとに練習 (13分) ・過去に練習・紹介した内容から選択し、(1対1、2対2、3対3) ディフェンスの成果が発揮できるようなルールを自分たちで作って、練習内容を行う。 ※本時の目的がずれないように、教師側から2つルール設定をする。(様子を見て解除し、各自で考えたルールのみで行ってもらう。) ①ボールを持った人は必ず1対1を狙う。(ドリブルをつく) ②1回の相手の攻撃でシュートを一度も打たせなかったらディフェンスに2点。 ・ルールが決まったら、ミニホワイトボードに記入し、共通理解をする。	☆苦手な生徒への手立て 教師や経験者の生徒が個別に声をかける。 *提示された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいるか。〈思-②〉【観察・ギガタブ】 ☆苦手な生徒への手立て 自分の課題だけではなく、チームメイトの課題も考えながらルール設定をするよう伝える。
まとめ 10分	○用具の片付け ○整理運動 ○学習のまとめ ・記録や反省を打ち込み、代表者に発表してもらう。 ・次時の課題の確認をする。 ○整列、挨拶	☆協力して片付けるよう声をかける。 ○ギガタブへグループで意見を出し合ったりまとめたりした活動の振り返りを打ち込むよう促す。 ☆本時の生徒の良かったところを伝える。 ◇怪我や体調不良者がいないか確認する。

【練習内容ごとのコート図】

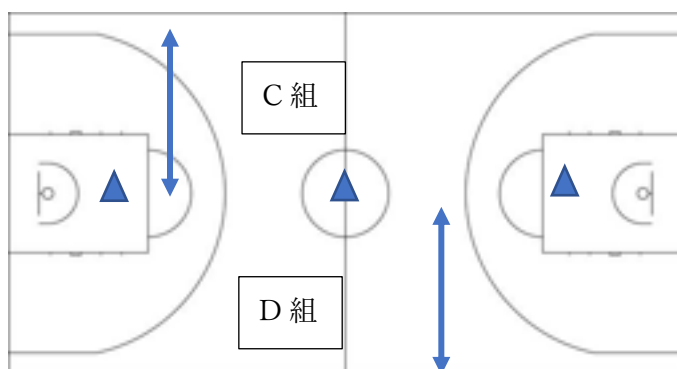
○オフェンス、☆パスする生徒、×ディフェンス、 ドリブル、 パス、▲コーン

 両側に立つ生徒

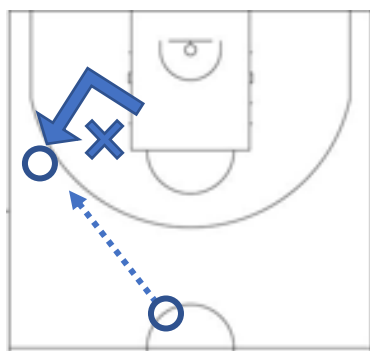
◆1 (4人組作成)



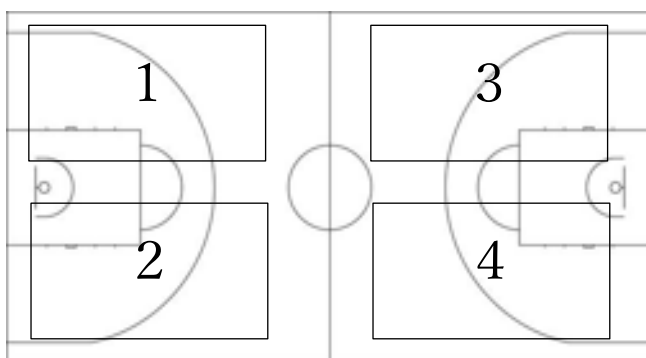
◆2 (クラスごとにサイドラインからコーンまでを使用)



◆3



◆4



学習カード：ギガタブ skymenu「発表ノート」活用

■ 1 ページ目：全 8 回の学習内容と全体目標

2 年生保健体育【球技】バスケットボール 全 8 回分の学習内容と全体目標

回	学習内容	全体目標
1	オリエンテーション 毎回のウォーミングアップ紹介	1 年生で学習したバスケットボールの特性を思い出そう
2	シュート・パス練習、ボールのもらい方	「Vカット」「ウィングエリア」を覚えよう
3	ドリブル、1 対 1、2 対 2	Vカットを使って対人練習に活かそう
4	3 対 3、4 対 4	自分たちで設定したルールで試合をしてみよう
5	ディフェンス練習（基礎）	
6	ディフェンス練習（応用）	チームでの守り方を覚えよう（ヘルプ）
7	リーグ戦	試合の達成目標を考え、試合に臨もう
8	リーグ戦	今まで学習した内容を意識して試合に臨もう



■ 2 ページ目以降：本時の目標と学習の振り返り入力欄（1 ページにつき 2 回分）

【R6】バスケットボール学習カード

月 日	1) 学習内容と全体目標	振り返り
		授業を振り返っての感想 【頑張ったことや、授業で身に付けた・覚えた内容等】 【グループごとの練習・・・ ①ルール設定で決めた内容②そのルールの正しい守り方は達成できたか】 【本日の MVP (理由も記入すること)】
	個人・チームの目標	
	月 日	2) 学習内容と全体目標
		授業を振り返っての感想 【頑張ったことや、授業で身に付けた・覚えた内容等】 【本日の MVP】
	個人・チームの目標	

■ 学習カード例（※ダンス学習時）

【R6】ダンス学習自己評価カード

月 日	1) 学習内容と全体目標	振り返り
8月2 日(月)	グループごとに作品づくりに入ろう。	授業を振り返っての感想 【頑張ったことや、授業で身に付けた・覚えた内容等】 本格的にグループで振り付けを考え始めたけど自分たちで振り付けの難しくて苦戦すると思ってたけどグループのみんなが明るくて積極的じゃなくても教え合っていたり声を出して明るい雰囲気ですムーズに進められたから良かった。一歩のみんなが積極的に取り組んでるから自分ももっともっと積極的に取り組んでこのグループよりも明るい雰囲気頑張ります!!!!!!!!!!!!!!
	個人・チームの目標	
	大団のダンスは覚えたので、みんなで協力しながら細かいことを調整する	
9月 4 日(水)	創作ダンス作品づくり 「はじめてな〜あわり」 までの展開を考えながら振り付けていこう。	授業を振り返っての感想 【頑張ったことや、授業で身に付けた・覚えた内容等】 基本グループ練習だったけど「色々考えてくれたおかげでスムーズに進められました。やっぱりかっこいいです。😊 振り付けをみんなで確認してるときにできないとか練習の言葉じゃなくてどうやるの? ってグループの人たちに聞いていたり経験者じゃない人がほほなのに教え合ったり最高のグループだなぁって思いました!!!! 自分は振りを見るのが早くなってきてあとは、ダンスをしながら隊形移動をすることを頑張ります!!!!!!!!!!!!!!
	個人・チームの目標	
	みんなで教え合って今日練習することを目標にする	